

# 獨協医科大学 附属看護専門学校 同窓会

## 杏の会

第2号

### 看護専門学校同窓会に寄せて

医科大学病院長 下田 新一

開校時獨協医科大学附属高等看護学院として発した現看護専門学校は創刊号で紹介されている様に歴史的背景にして20余年の歴史をもつ立派な看護婦養成学校として成長して参りました。ここにやっと同窓会発足の運びとなった事は真に喜ばしいことで、今後の発展が大いに期待されます。同窓会を発足される事は大変な仕事であったと思いますが、豊田会長をはじめ発足にあたりご苦労された関係者各位に感謝する次第であります。



獨協医科大学病院に勤務する看護婦の60%は本学卒業生という事になっていますし、又中心的地位につき、大学病院の骨格となった人もおり、医科大学病院と看護という観点から大変喜ばしい事と考えております。同窓会発足をきっかけに卒業生同士、相互の連絡を密にし、お互いに助け合い、より充実した人生を送る為の会になっていただければと考えております。

### 伝統の担い手として

前教務主任 小原澤 栄子

獨協を離れて間もなく10年になります。この度は、「杏の会」第2号誌で同窓会の皆様にご挨拶を申し上げられる機会を頂きまして、誠に光栄に思います。



10年一昔と言われますが色々な事が去来しました。今ペンを執っておりますと私が獨協で関わりました人々や、事どもの思い出に包みこまれます。時あたかもクリスマスで一人一人の消息に心を馳せながらお祈りいたしております。

私は今、助産婦の母校でもあり、そして伝統ある聖バルナバ助産婦学院で教務主任をしておりますが、伝統というものはその時代、その時の人々が、古きをぬぎ、新しき良きものを取り入れつつ真摯に築き上げるものである事をしみじみと感じております。

獨協の皆様も「先取、質実の精神」の伝統の担い手としての誇りと自信をもって、より質の高い看護をプロデュースされますよう、益々の発展を心からお祈り申し上げます。

## キャンドルの火よ何時までも

前主事 宋戸 英雄

思えば昭和49年4月、本学附属高等看護学院の設立以来早いもので、既に20数年が流れました。そして輝かしい同窓会の発足、そしてその歩み、本当におめでとうございます。私も開院当初、現名誉学長の磯田仙三郎先生を学院長にいただき、その下でいささかお手伝いを続けた関係上、あらためて我子の立派な生長ぶりを見る思いで、その喜びも一汐です。いみじくも名付けられた杏の会の会員名簿をめくるにつけ、当時の数々の思い出が去来し、今昔の感に絶えません。当初の16名から今や1100名の大世帯への発展、すばらしいですね。どうか一人一人、戴帽式でキャンドルを見つめたあの心を大切に、病める人へのやさしさの大きな大きな輪を拡げて下さい。



## 思い出

前主事 関 光

かれこれ20年前の事です。新しく医科大学並びに附属病院の誕生で必然的に多数の看護職員を集める事となり東に西にと走り廻る毎日でした。又自前の看護学院を創る事で苦勞して第1回の入学生を迎えました。1級30名の定員のところ16名で出発、以来30名、50名、現100名の増員となり加えて進学コース（夜間）も増設、今日の盛大な看護専門学校となりました。樹々は年輪を重ねて大樹となり人々も又年齢を重ねて思慮ある人生を送る事が出来ます。我が看護専門学校も益々世に名をあげて専門職としての実績を築かれる事を希望しております。往時の事が走馬燈の様に私の脳裡を駆けめぐっております。皆さん！！お元気にね。



## 同窓会「杏の会」発足に寄せて

医科大学病院看護部長 渡邊 暎子

同窓会「杏の会」ご発足おめでとうございます。

開校当時を知るものにとって毎年100名を越す卒業生を送り出す現在の盛況を誰が想像できたでしょうか。昭和48年、足立区竹ノ塚の開設準備室の一室で開院と看護学校開設準備に携わっていた仲間達と看護について熱い語らいをしたことがつい昨日のように思い出されます。



昭和49年初の入学式は4月の末、新入生は16名。「初めてのクラスとして非常に良い数だ」と創始者の故関湊理事長は慶んでおられました。

21年後、卒業生の活躍も全国各地へと拡がっています。現在、大学病院で働いている看護婦の獨協卒業生は365名比率を見ますと59.6%を占めています。「獨協の看護は素晴らしい」とお褒めの言葉を耳にしますがこれら卒業生が中核になって活躍している事が大きいと思っています。

おわりに創立20年目に出来た同窓会大切に育て更に発展されますことをお祈り致します。

## 『新しい獨協を語る』に出席して

同窓会会長 豊田 省子

去る8月10日、学園本部で獨協中学・高校・大学・医科大学・看護学校卒業生による座談会が行われました。21世紀への展望として、①ドイツにも獨協高校を、②獨協大学に司法試験を目指す課程を、③これら5つの学校に共通するサークル活動を創設し、その絆を基に将来学際的な仕事を、④看護学校を短大あるいは大学に、などという声が聞かれました。最後に獨協に学んだ私たちが社会で活躍することで学生に夢を与えていくことが私たち卒業生の役割であることを見出だし、今後ますます手を取り合って協力していきましょと申し合わせて閉会となりました。このような機会を与えて下さった獨協会に感謝申し上げます。

## 第2回同窓会総会 並びに懇親会行われる

同窓会事務局

去る6月11日(土)、多くの皆様方のご協力を得て、第2回同窓会総会を無事開催することができました。今回は、名誉・特別会員の方々のご出席を頂き、大変心強く、またうれしく思いました。

平成6年度の活動方針は、会員の意識の高揚を図り、連帯して活動を推進するとし、新たな委員会活動として、社会福祉委員会を設けました。具体的には、この会誌に紹介しております。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

引き続き行われた懇親会では、学年を越えて旧交を暖め、貴重なひとときを過ごすことができました。またこの機会にクラス会を開催した学年もあり、今後このような企画を多くの学年がすることで同窓会を盛大にしていくこともできると感じました。あなたの学年もどうでしょうか？



役員の一部交替がありましたので以下に紹介致します。

会計：柏倉 貴子 (I部14回生)

阿久津智子 (I部15回生)

### 1 番教室の窓から

この花を覚えていますか？ ふと、窓の外を見ると白くかれんな“こぶし”の花が咲いていて、そっと私たちの授業風景を眺めていたのです。

平成6年4月撮影



## 1 枚の風景画

第3回生 石川千賀子

今から15年前に、I部3回生の卒業式が執り行なわれました。今思うとずっと昔のように思います。その時に在學生に送った記念品が風景画の油絵です。この



絵は、宇都宮のある画材店に、何気なくおいてあった物を購入しました。澄みきった風景が気に止まったのです。こののち、育ちうる看護學生が病院実習でいろいろな患者の訴えや看護で悩んだり、苦しんだりした時に、殺風景な壁に絵が掛けられていたら、少しは気がまぎれて、乗り越えられたらと願ってのことです。とかく看護職は、生死にかかわってくることが多いので、心に余裕を持つ事は大切になってくるはず。なお、看護学校にお立ちよりの際は、ぜひ御覧頂ければ幸いです。

### 板橋イク子先生「看護大会長賞」受賞

平成6年5月15日に第8回栃木県看護大会において、板橋イク子先生は長年に亘る看護業務と看護界に於ける功績を認められ、栄えある「看護大会長賞」を授与されました。心よりお慶び申し上げます。

### 8 回生クラス会開催

平成6年6月12日総会終了後、小原澤先生をはじめ諸先生方を囲んで、“楽しかった学生時代の思い出話”に花を咲かせました。つきることのない話に「来年はもっと大勢集まるといいね、温泉もいいな。」の声で、会はお開きとなりました。先生方、来年も是非ご出席して下さい。



## 須藤和子(旧姓出井)先生ご逝去

先生(享年40歳)は、平成6年12月6日(火)午後3時30分、ご逝去されました。

先生は、昭和57年4月より平成2年3月までの9年間、専任教員として看護教育に情熱を注がれ、本学の発展・充実に寄与されました。ここに先生のご遺徳、ご功績を偲び心からご冥福をお祈りいたします。

## 『ロータスクーポン収集』にご協力を!

社会福祉委員会

社会福祉委員会が発足しました。当委員会は、会員の方々にロータスクーポンを集めて頂き、それにより得た収益(点数)を車椅子等の品物と交換して、公共施設等へ寄付することを主活動とします。収集したロータスクーポンは院内の回収袋または事務局へ郵送、持参して下さい。皆様のご協力をお願い致します。

## “魔の4回生”という異名

第4回生 村上妃沙子

看護学院の正面を入ると、銅版の獨協マークが目に入ります。遠い昔15年前、55年卒業時に、4回生全員で話し合い、獨協の象徴であるマークが記念品とされたのです。一番纏まりのない



“魔の4回生”と異名をとった53名が、珍しく意見が一致し銅版の獨協マークが贈られました。私達は、獨協医科大学附属看護学院の卒業生である事を誇りに、優しさと思いやり・豊かな感性を育てる為に3年間学びました。今振り返ると4回生53名が、喜怒哀楽を共にした3年間という日々が懐かしく思い出されます。今は離れてしまった卒業生も、学生と同じ様に“魔の4回生看護婦”と、プラスされた異名を現在も保ち、任務に就いている事は言うまでもありません。

## ＝卒業生の活躍＝

## お年寄りと共に生きたい

のぞみホーム施設長 奥山 久美子

1993年7月1日に、のぞみホームは開所しました。

のぞみホームとは痴呆性老人デイホーム(老人の保育園と考えて頂ければわかりやすいかもしれません)のことです。ホームで一番大切にしていることは、お年寄りにとって居心地がよく、その時その時を楽しく過ごせる場所作りです。昔話をする事や、一緒に掃除をする、そんな普通の生活の中でその人達が生かされ、その場面、場面で主人公なのです。



オープン以来ずっと“のぞみホーム”にかかわってきて、お年寄りが住み慣れた地域で普通に暮らしていくには、それを支えるための受け皿がもっとも必要だと感じています。これからも、お年寄りやその家族にとってよりよい生活の場について考え、伝えていきたいと思えます。

(第I部14回卒業生)

## 編集後記

この会誌第2号も、創刊号同様“記念誌”としての内容を考え、名誉並びに特別会員の方々よりお言葉を頂くことができました。紙上をお借りして厚くお礼申し上げます。

会員の皆様方、この会誌を作成するにあたり、多くの情報や楽しい企画をお寄せ頂きたいと思えます。

同窓会会誌「杏の会」第2号

発行年月日 平成7年2月10日

発行 附属看護専門学校同窓会事務局

発行責任者 事務局長 南條 珠江

編集 会誌作成委員会

〒321-02 栃木県下都賀郡壬生町北小林 880

☎0282-87-2244

印刷 株松井ビ・テ・オ・印刷